

# 調査結果の概要

## 1 身長・体重・座高の平均値

### (1) 身長(第2表・P10、第3表・P12)

男女ともにここ10年横ばい傾向

#### ア 男子

(ア) 前年度と比べると、5歳、6歳、8歳、11歳及び16歳で増加している。

(イ) すべての年齢で全国平均値を下回っている。

#### イ 女子

(ア) 前年度と比べると、16歳及び17歳で増加している。

(イ) すべての年齢で全国平均値を下回っている。

### (2) 体重(第2表・P10、第3表・P12)

男女ともにここ10年横ばい傾向

#### ア 男子

(ア) 前年度と比べると、8歳、10歳、11歳及び12歳で増加している。

(イ) 14歳を除く各年齢で全国平均値を下回っている。

#### イ 女子

(ア) 前年度と比べると、7歳、10歳、15歳及び17歳で増加している。

(イ) 17歳は過去最高となった。

(ウ) すべての年齢で全国平均値を下回っている。

### (3) 座高(第2表・P10、第3表・P12)

男女ともにここ10年ほぼ横ばい傾向

#### ア 男子

(ア) 前年度と比べると、7歳、8歳、11歳、13歳、14歳、15歳、16歳及び17歳で増加している。

(イ) 13歳及び14歳を除く各年齢で全国平均値を下回っている。

#### イ 女子

(ア) 前年度と比べると、7歳、10歳、16歳及び17歳で増加している。

(イ) 16歳及び17歳は過去最高となった。

(ウ) 7歳及び14歳を除く各年齢で全国平均値を下回っている。

### (4) 年齢間の比較(表1)

身長は男子では11歳から12歳、女子では10歳から11歳が最大

各年齢間の差を比較すると、男子は身長及び体重の11歳と12歳の間、座高の12歳と13歳の間が最も大きく、それぞれ7.4cm、6.1kg及び3.8cmとなっている。

女子は身長の10歳と11歳の間、体重の11歳と12歳の間、座高の5歳と6歳の間が最も大きく、それぞれ6.7cm、5.2kg及び3.8cmとなっている。

表1 身長・体重・座高の平均値の年齢差

単位：cm、kg

区 分	年齢	男 子			女 子		
		身長	体重	座高	身長	体重	座高
幼稚園	5歳	-	-	-	-	-	-
小学校	6歳	5.8	2.5	3.5	6.1	2.4	3.8
	7歳	5.8	2.6	2.8	5.9	2.7	2.9
	8歳	5.7	3.1	2.6	5.6	2.4	2.5
	9歳	5.0	3.2	2.2	5.8	3.8	2.8
	10歳	5.6	3.9	2.4	6.4	3.9	2.9
	11歳	6.3	4.1	2.9	6.7	4.8	3.5
中学校	12歳	7.4	6.1	3.5	5.6	5.2	3.0
	13歳	7.3	5.0	3.8	3.1	3.4	1.7
	14歳	5.7	5.9	3.2	1.8	3.0	1.2
高等学校	15歳	2.8	3.9	1.5	0.5	1.6	0.2
	16歳	1.7	1.8	1.1	0.8	0.6	0.5
	17歳	0.9	1.8	0.6	0.0	1.1	0.1

注) 網掛けの濃い部分は最大値、薄い部分は最小値を示す。

(5) 男女の比較(図1、表2)

身長、体重及び座高ともに11歳では女子が男子を上回る

男子と女子を比較すると、身長は10歳及び11歳で、体重は11歳で、座高は9歳から12歳で女子が男子を上回っている。

図1 年齢別・男女別の平均値

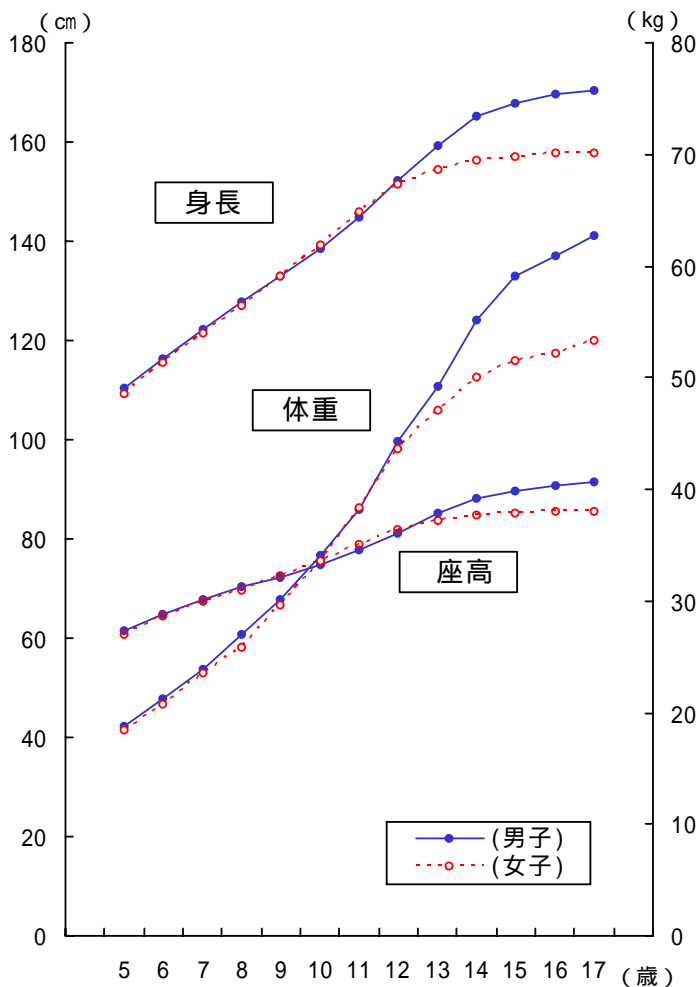


表2 身長・体重・座高の平均値の男女差

単位：cm、kg

区 分	年齢	身長	体重	座高
幼稚園	5歳	1.1	0.4	0.7
小学校	6歳	0.8	0.5	0.4
	7歳	0.7	0.4	0.3
	8歳	0.8	1.1	0.4
	9歳	0.0	0.5	0.2
	10歳	0.8	0.5	0.7
	11歳	1.2	0.2	1.3
中学校	12歳	0.6	0.7	0.8
	13歳	4.8	2.3	1.3
	14歳	8.7	5.2	3.3
高等学校	15歳	11.0	7.5	4.6
	16歳	11.9	8.7	5.2
	17歳	12.8	9.4	5.9

注) 男子の数値から女子の数値を引いたものであり、網掛けの部分は、女子が男子を上回っていることを示す。

## 2 17歳（高等学校3年生）の年間発育量の比較

### (1) 身長（図2、表3）

女子の最大発育量の時期は男子に比べ2歳早い

今年度の17歳（昭和63年度生まれ）の年間発育量をみると、男子は11歳及び12歳時に大きくなるとともに最大の発育量となっている。女子は9歳から10歳時に発育量が大きくなっており、9歳時に最大となっている。最大発育量を示す年齢は、男子に比べて女子が2歳早くなっている。

また、親の世代の17歳（昭和33年度生まれ）と比較すると、男子は発育量が最大となる時期は親の世代より1歳早い11歳時及び親の世代と同じ12歳時となっており、5歳、7歳から12歳及び16歳の各歳時で親の世代を上回っている。女子は発育量が最大となる時期は親の世代より1歳早い9歳時となっており、5歳、8歳、9歳及び16歳の各歳時で親の世代を上回っている。

図2 昭和63年度生まれと昭和33年度生まれの者の年間発育量の推移（身長）

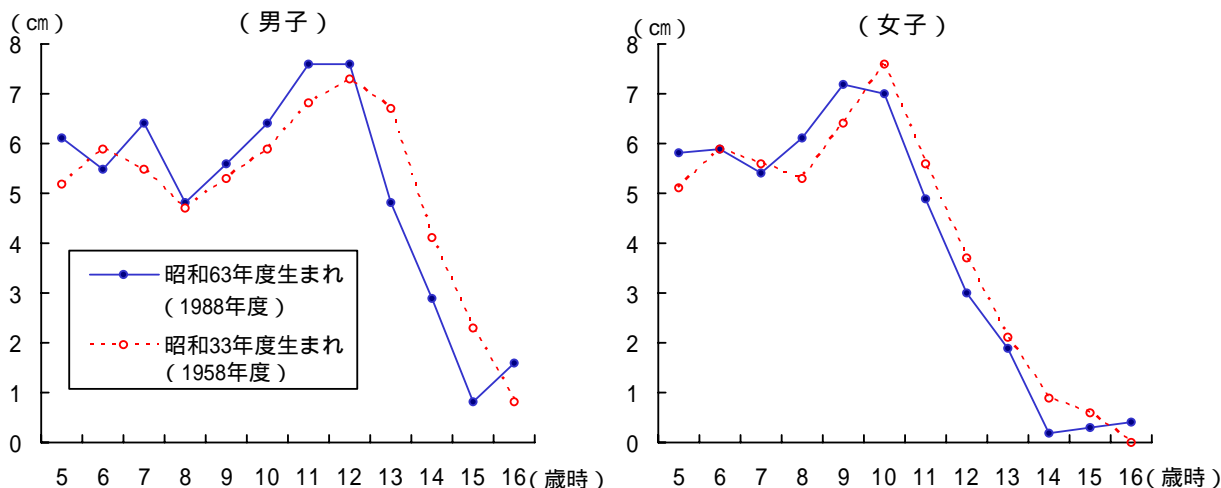


表3 昭和63年度生まれと昭和33年度生まれの者の年間発育量の比較（身長）

単位：cm

区分	男子					女子					
	昭和63年度生まれ (A)	年間発育量	昭和33年度生まれ (B)	年間発育量	世代間差 (A)-(B)	昭和63年度生まれ (A)	年間発育量	昭和33年度生まれ (B)	年間発育量	世代間差 (A)-(B)	
総発育量	60.1		60.5			48.1		48.8			
幼稚園	5歳時	110.4	6.1	108.0	5.2	2.4	109.6	5.8	107.0	5.1	2.6
	6歳時	116.5	5.5	113.2	5.9	3.3	115.4	5.9	112.1	5.9	3.3
小学校	7歳時	122.0	6.4	119.1	5.5	2.9	121.3	5.4	118.0	5.6	3.3
	8歳時	128.4	4.8	124.6	4.7	3.8	126.7	6.1	123.6	5.3	3.1
	9歳時	133.2	5.6	129.3	5.3	3.9	132.8	7.2	128.9	6.4	3.9
	10歳時	138.8	6.4	134.6	5.9	4.2	140.0	7.0	135.3	7.6	4.7
	11歳時	145.2	7.6	140.5	6.8	4.7	147.0	4.9	142.9	5.6	4.1
中学校	12歳時	152.8	7.6	147.3	7.3	5.5	151.9	3.0	148.5	3.7	3.4
	13歳時	160.4	4.8	154.6	6.7	5.8	154.9	1.9	152.2	2.1	2.7
	14歳時	165.2	2.9	161.3	4.1	3.9	156.8	0.2	154.3	0.9	2.5
高等学校	15歳時	168.1	0.8	165.4	2.3	2.7	157.0	0.3	155.2	0.6	1.8
	16歳時	168.9	1.6	167.7	0.8	1.2	157.3	0.4	155.8	0.0	1.5
	17歳時	170.5	-	168.5	-	2.0	157.7	-	155.8	-	1.9

- 注) 1 年間発育量とは、例えば昭和63年生まれの「5歳時」の身長の年間発育量を算出する場合、平成7年度調査の6歳の者の身長平均値から平成6年度調査の5歳の者の身長平均値を引いたものである。表4について同じ。  
 2 昭和33年度生まれの11歳時及び12歳時の数値は、都道府県別集計が行われなかったため、全国平均値を掲載した。表4について同じ。  
 3 網掛けの部分は、最大の年間発育量及び世代間差を示す。表4について同じ。

(2) 体重 (図3、表4)

**女子の最大発育量の時期は男子に比べ2歳早い**

17歳(昭和63年度生まれ)の年間発育量をみると、男子は11歳から12歳時に発育量が大きくなっており、12歳時に最大となっている。女子は9歳から11歳時に発育量が大きくなっており、10歳時に最大となっている。最大発育量を示す年齢は、男子に比べて女子が2歳早くなっている。

また、親の世代と比較すると、男子は発育量が最大となる時期は1歳早く、5歳から12歳時までの発育量は親の世代を上回っている。女子も発育量が最大となる時期は1歳早く、5歳から10歳及び16歳時の発育量は親の世代を上回っている。

図3 昭和63年度生まれと昭和33年度生まれの者の年間発育量の推移(体重)

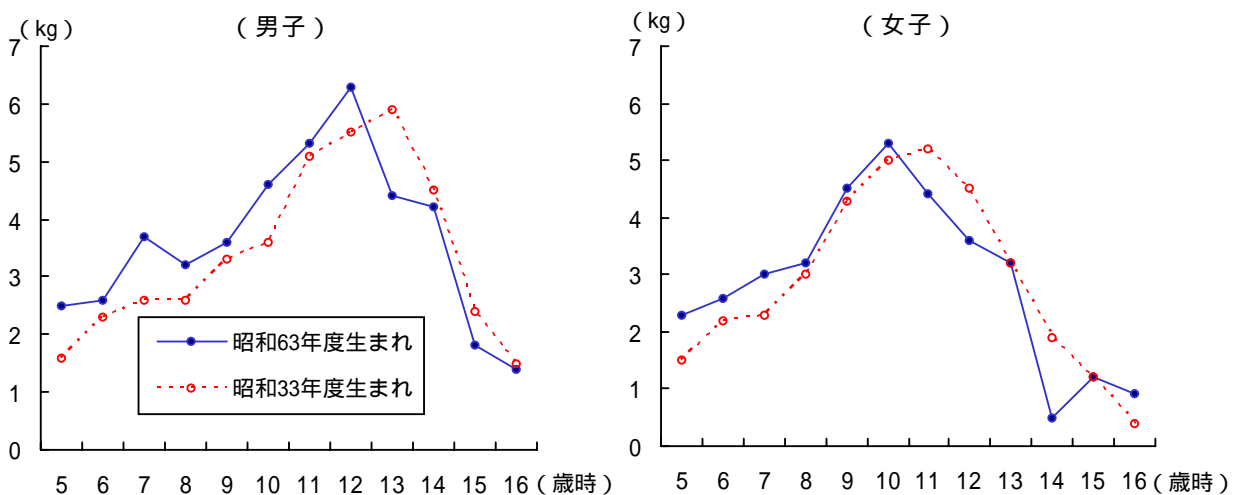


表4 昭和63年度生まれと昭和33年度生まれの者の年間発育量の比較(体重)

単位: kg

区分	男子					女子							
	昭和63年度 生まれ (A)	年間 発育量	昭和33年度 生まれ (B)	年間 発育量	世代間差 (A)-(B)	昭和63年度 生まれ (A)	年間 発育量	昭和33年度 生まれ (B)	年間 発育量	世代間差 (A)-(B)			
総発育量		43.6			40.9			34.7			34.7		
幼稚園	5歳時	19.1	2.5	17.8	1.6	1.3	18.6	2.3	17.4	1.5	1.2		
	6歳時	21.6	2.6	19.4	2.3	2.2	20.9	2.6	18.9	2.2	2.0		
小学校	7歳時	24.2	3.7	21.7	2.6	2.5	23.5	3.0	21.1	2.3	2.4		
	8歳時	27.9	3.2	24.3	2.6	3.6	26.5	3.2	23.4	3.0	3.1		
	9歳時	31.1	3.6	26.9	3.3	4.2	29.7	4.5	26.4	4.3	3.3		
	10歳時	34.7	4.6	30.2	3.6	4.5	34.2	5.3	30.7	5.0	3.5		
	11歳時	39.3	5.3	33.8	5.1	5.5	39.5	4.4	35.7	5.2	3.8		
中学校	12歳時	44.6	6.3	38.9	5.5	5.7	43.9	3.6	40.9	4.5	3.0		
	13歳時	50.9	4.4	44.4	5.9	6.5	47.5	3.2	45.4	3.2	2.1		
	14歳時	55.3	4.2	50.3	4.5	5.0	50.7	0.5	48.6	1.9	2.1		
高等学校	15歳時	59.5	1.8	54.8	2.4	4.7	51.2	1.2	50.5	1.2	0.7		
	16歳時	61.3	1.4	57.2	1.5	4.1	52.4	0.9	51.7	0.4	0.7		
	17歳時	62.7	-	58.7	-	4.0	53.3	-	52.1	-	1.2		

### 3 30年前との比較

(1) 身長・体重・座高の平均値 (図4、図5、図6、第4表・P13)

身長差は男子では13歳、女子では9歳が最大

平成18年度の平均値を30年前の昭和51年度と比較すると、男子は、身長差は13歳(3.9cm)、体重差は12歳及び14歳(4.5kg)、座高差は13歳(2.1cm)が最も大きな開きを示している。女子は、身長差は9歳(2.5cm)、体重差は12歳(2.6kg)、座高差は9歳、11歳、16歳及び17歳(1.2cm)が最も大きな開きを示している。

図4 身長の平均値 30年前との比較

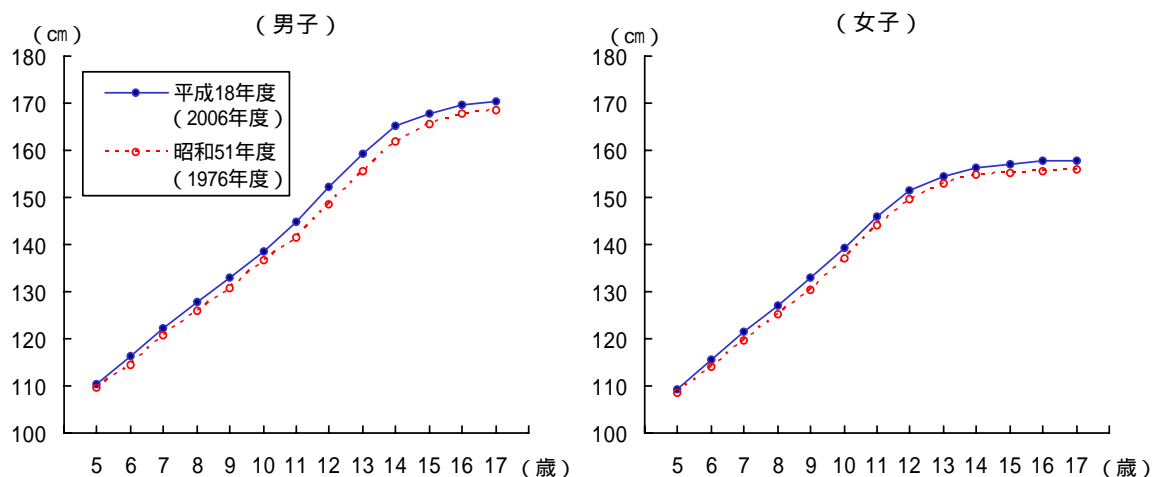


図5 体重の平均値 30年前との比較

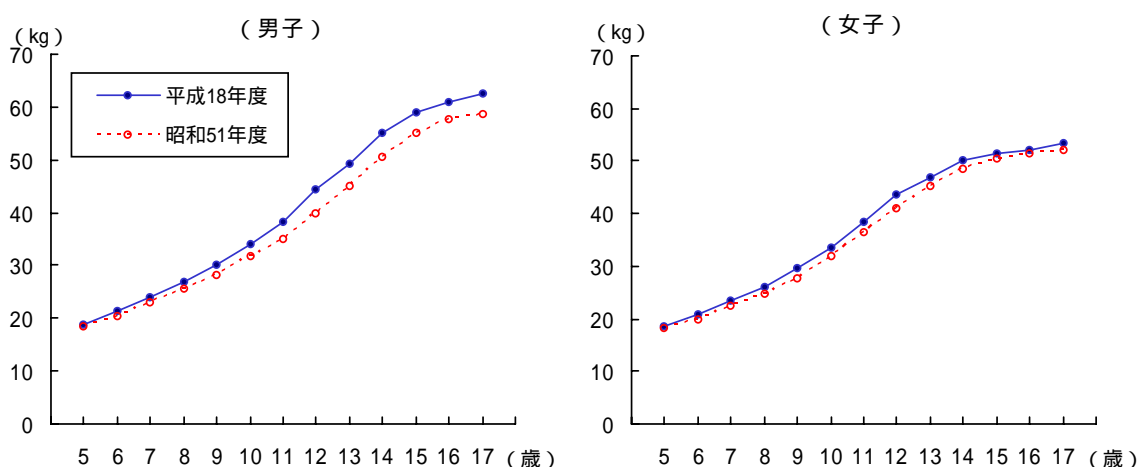
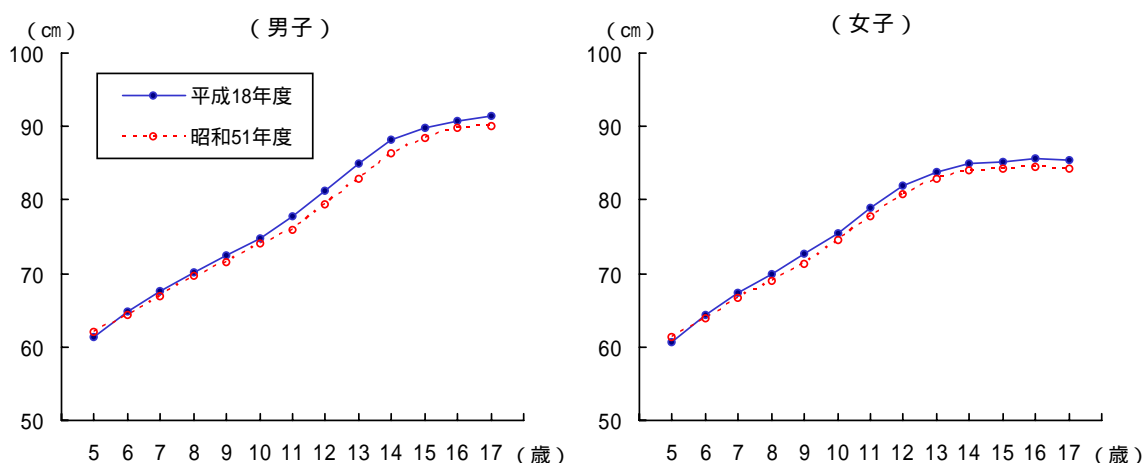


図6 座高の平均値 30年前との比較



(2) 身長に占める足の長さの割合(表5)

最大差は男女ともに5歳

身長に占める足の長さの割合について比較すると、最も差がある年齢は男女ともに5歳で、30年前より男子は1.0ポイント、女子は1.1ポイントそれぞれ割合が大きくなっている。

一方、男子は11歳、13歳、14歳及び17歳、女子は11歳、12歳、14歳、16歳及び17歳がそれぞれ30年前より割合が小さくなっている。

表5 身長に占める足の長さの割合 30年前(昭和51年度)との比較

単位：%

区 分		男 子			女 子		
		平成18年度 (A)	昭和51年度 (B)	差 (A)-(B)	平成18年度 (A)	昭和51年度 (B)	差 (A)-(B)
幼稚園	5歳	44.5	43.5	1.0	44.6	43.5	1.1
小学校	6歳	44.3	43.8	0.5	44.2	44.0	0.2
	7歳	44.6	44.4	0.2	44.6	44.4	0.2
	8歳	45.1	44.8	0.3	45.0	44.9	0.2
	9歳	45.5	45.3	0.2	45.3	45.2	0.1
	10歳	46.0	45.8	0.2	45.8	45.7	0.1
	11歳	46.3	46.3	0.0	45.9	45.9	0.1
中学校	12歳	46.6	46.6	0.1	45.9	45.9	0.0
	13歳	46.7	46.7	0.0	45.9	45.8	0.1
	14歳	46.6	46.7	0.1	45.7	45.7	0.0
高等学校	15歳	46.6	46.6	0.0	45.8	45.7	0.0
	16歳	46.5	46.4	0.0	45.7	45.8	0.1
	17歳	46.4	46.5	0.1	45.8	45.9	0.1

- 注) 1 身長に占める足の長さの割合 = (身長 - 座高) / 身長  
 2 数値は小数点以下第2位を四捨五入して表示しているが、「差」はこれらを含めて算出しており、計算式の解と一致しない場合がある。  
 3 網掛けの部分は最大差を示す。